資料２

概要版

東郷町デジタル田園都市国家構想総合戦略

はじめに

◆ **背景・目的**

国及び愛知県の方向性等を踏まえ、地域の課題を再整理し、本町の強みや特長を活かしつつ、デジタルの力を活用した**課題解決に向けた取組の加速化・深化等を図るため。**

第１章　人口ビジョン

１）国・愛知県の人口動向

国	愛 知 県
● 2008年から総人口は減少傾向 ● 少子高齢化の進行 ● 出生数の減少と死亡数の増加	● 2020年から総人口は減少傾向 ● 出生数の減少と死亡数の増加 ● 社会増減はコロナ禍前の水準に

２）本町の人口動向

◆ **人口動向**

- 2025年から総人口は減少傾向（社人研推計）
- 日本人人口が減少する中で外国人人口が増加（近年、ベトナム国籍の外国人人口が増加）
- 現役世代の減少する中、団塊ジュニア世代が高齢者へ

（独自推計結果）
- 総人口は2025年をピークに、社人研の推計より早く減少する
- 生産年齢人口も2025年がピーク

◆ **人口動態**

- 2020年より自然減に転じる
- 生涯未婚率は男女ともに低水準
- 社会経済の動向に応じて転入者数は変化
- 合計特殊出生率は全国や愛知県よりも高いが減少傾向
- 子どもを産む世代の女性は緩やかに減少傾向
- 20歳代が最も多く移動しており、20歳代前半の女性は転出超過傾向
- 死亡数が出生数を上回る
- 未婚化・晩婚化の進行
- 名古屋市や近隣地域での移動が多い
- 子育て世帯は転入超過傾向

◆ **産業の状況**

- 製造業を中心とした産業構造
- ベッドタウンの側面が強い
- 自動車産業は100年に一度と言われる産業構造の転換期
- 名古屋市への通勤者は減少、豊田市へは増加傾向

３）住民の意識

- 若年層（10～20代）の町内への定住意向は低い傾向
- 各世代において、公共交通のさらなる充実が求められている
- 自分らしい時間を過ごせる居心地のいい場所が必要とされている
- 女性と若年層にとって、自分がやりたいと思える仕事のニーズは高いものの、町内には少ないと思われている
- 町内から通える町外の場所も含め、就職先の選択肢が少ないと思われている
- 理想とする数の子どもを持てていない人は６割
- 未婚であることや経済的・心理的・肉体的な負担が大きいことなど、様々な要因により、子どもを持てていない実態がある
- 出産や未就学児の子育てといった点で、東郷町に住むことを勧めやすい

４）第２期総合戦略の検証

- 第２期総合戦略で設定した人口の目安に届かない
- 企業誘致や創業支援に関する取組が一定の成果を挙げている一方、女性と若年層の仕事のニーズに適う必要がある
- 住みよさの向上と、その情報発信に関する取組が一定の成果を挙げている一方、まちの中心核の魅力向上を図る必要がある
- 結婚・出産・子育てに関する希望をかなえ、安心して子どもを産み育てられる環境を整備する必要がある
- 公共交通の充実と、若年層の定住を促進する魅力的な地域をつくる必要がある

５）人口の将来展望の設定

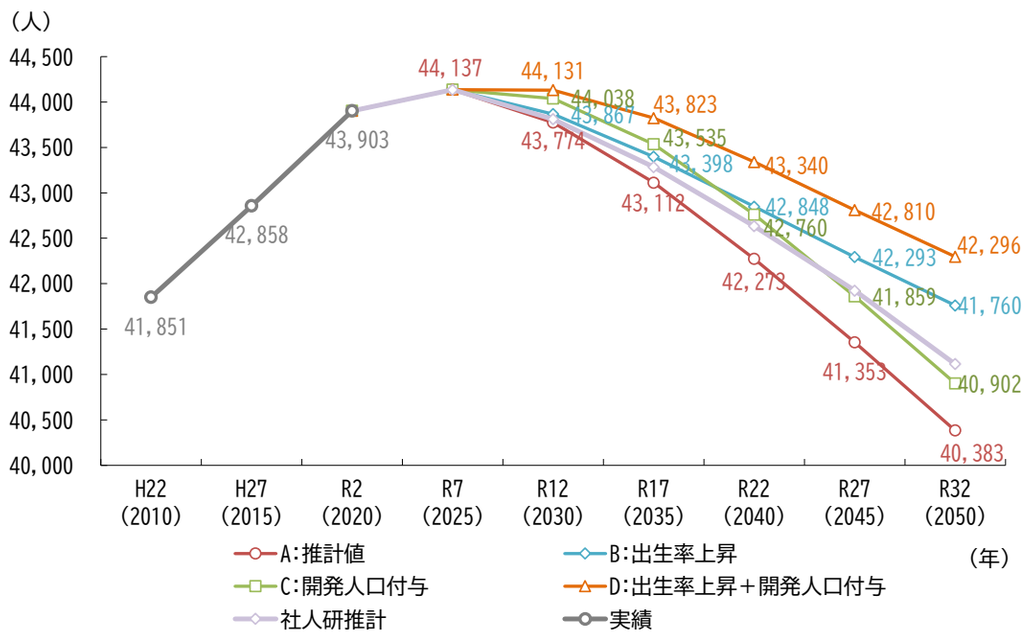
◆ 人口を取り巻く課題の整理

- 生産年齢人口の減少による、高齢者を支える**現役世代の負担の増大**
- **出生数の減少に拍車がかかる可能性**
- 生産年齢人口を確保に向けた**社会増の継続**
- 次世代自動車の普及に伴う、**社会増減への影響の可能性**
- 生活環境と値ごろ感に依存した**ベッドタウンとしての継続的な発展への危惧**
- 定住意向の低い**若年層（10～20代）の満足度を高められる取組**（交通の利便性向上、居心地のいい場所づくり等）**の必要性**
- 若年層や女性が本町に住みながら、**やりたいと思える仕事の選択肢が少ない**

６）本町人口の長期的な見通し

◆ **背景・目的**

人口推計結果をもとに、出生率の上昇やセントラル開発に伴う転入人口の仮定値を設定した、シミュレーションを実施。その結果、**開発人口付与＋出生率上昇のパターンDでは令和12年（2030年）まで44,000人代を維持。**その後、緩やかに減少し、**令和17年（2035年）までは現在の人口が概ね維持される。**



東郷町デジタル田園都市国家構想総合戦略

概要版

第２章　総合戦略

◆ 地域ビジョン（目指すべき理想像）

「人・まち・みどり　ずっと暮らしたい　とうごう」（現総合計画の将来都市像）

本戦略で整理した課題等の解決に取り組み、人口減少や少子高齢化のスピードの鈍化と、町内外から居住地として選ばれる都市の実現を目指す。

地域ビジョンの実現に向け、基本目標１～４を設定し、それらに基づく施策を推進。施策の推進にあたり、横断的な視点を重視する。基本目標ごとに数値目標を設定し、数値の向上を目指す。

課題の対応方針	基本目標	施策
【方針１】 利便性が高く、 居心地のいい まちづくり	1 住みやすく、満足度の高い 魅力的な地域をつくる ◆ 数値目標 ① 東郷町は住みやすいと考える町民の割合 ② 東郷町に住み続けたいと考える町民の割合	(1)まちのにぎわいの創出と広域での地域活性化 (2)利便性の高い公共交通ネットワークを形成する (3)郷土愛や誇りを持てる地域文化を育む (4)地域の安全・安心を強化する (5)誰もが元気に暮らせる健康づくりを支援する (6)地域コミュニティを維持・強化する (7)行政サービスの利便性を高める
【方針２】 子育ての切れ目の ない包括的支援	2 結婚・出産・子育ての希望を かなえる ◆ 数値目標 ① 理想とする子どもの数と同じ、またはそれ以上の子どもがいる町民の割合 ② 安心して子どもを産み育てられると考える町民の割合	(1)結婚・妊娠・出産を支援する (2)安心して子育てができる環境をつくる (3)仕事と家庭の両立を推進する
【方針３】 まちの価値を 高める	3 新しいひとの流れを強化する ◆ 数値目標 ① 転入超過数（年間） ② 昼夜間人口比率	(1)まちの中心核の魅力を高める (2)若い世代が残れる・戻れる・住みたいと思う まちをつくる (3)ブランディング施策を強化する (4)多様な関係人口を創出する
【方針４】 やりたいと思う 仕事があり、 安心して働ける まちづくり	4 やりがいの持てる仕事の選択肢を 増やす ◆ 数値目標 ① 自分がやりたいと思える仕事が町内にあると考える町民の割合 ② 東郷町内で働く町民の数	(1)働きやすい環境整備を支援する (2)創業を支援する (3)働きたいと思う仕事の選択肢を増やす

横断的な視点：デジタル技術の活用／産官学等の連携